

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く・読む」…文章で表現する時の語彙は乏しい。また、学習した漢字を正しく書く力が乏しい。初めて読む文章についての読解力は低めである。読んだことや調べたことをもとに自分の考えをもち、文章に表すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ・「話す・聞く」…自分の意見や考えをすすんで話したり、すすんで話し合いに参加したりする児童が限られている。 ・「漢字・言語」…漢字の学習では、定着の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く・読む」…視写・聴写・短文などの書く活動を多く取り入れ、書き慣れていくようにする。限られた時間内にきれいに正しく書けるようにしていく。音読をする時に、自分の声を自分で聞いたり、誰かに聞いてもらったりと、聞くことを意識できるような工夫をしていく。字形・送り仮名は、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導していく。 ・「話す・聞く」…興味や関心のある話題による対話や、話し合い・発表を授業の中に取り入れていく。基本の話型を提示することで発表の仕方を覚えさせる。 ・「漢字・言語」…朝学習などを活用して反復練習をしていく。国語辞典を日常的に活用していく。習った漢字や語句は作文等で使えるようにノート指導をしていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童は数の増減など資料の単純な読み取りができるが、複数の資料を組み合わせて読み取れる児童が少ない。 ・東京23区や47都道府県などの地名や位置を十分に覚えている児童が少なく、基礎的な知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から物事を判断する場合は、一つ一つの資料から何が分かるかを丁寧に確認するようにする。その後それらを組み合わせるとどのようなことが言えるのかをまずは個人で考えさせ、その後学級全体で考えさせる。 ・知識の定着のため、授業の時間や朝学習の時間等に定期的にプリントを解かせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルの結果から、どの学年も「A 数と計算」で課題が多くあった。また、高学年になると、「単位量当たりの大きさ」や「割合」など事象を数学的に捉え論理的に考察し、問題を解決する力を伸ばしていくことが求められる結果となった。 ・既習事項が定着しておらず、学習内容を積み重ねていくことが難しい。 ・自分の考えをノートに書いていても、発表することに抵抗があったり、自信をもてなかったり児童が、高学年になるにつれ増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算に課題がある児童に対しては個別に課題を出したり、場合によってはクラス全体で基礎的な計算問題を解く時間を授業内に設けたりして基礎・基本の定着を図る。 ・基礎的な計算が苦手なままにならないよう、その計算を学習した学年のうちに十分に習得させる。そのため、その単元の授業中に問題演習の時間を設ける。それ以降の単元の授業でも定期的に計算問題に立ち返る時間を設けるなど繰り返し問題演習を行い、確実に力を身に付けさせる。 ・毎授業、前時までの復習問題に取り組む時間を設けることで学習内容を着実に積み重ねていく。 ・自分の考えを説明する場面を増やす。全体の場の他に、隣の席の人や班の人同士で説明する等交流活動の時間を設ける。こうすることで表現力を高めるとともに、学習内容のより深い理解や考え方の多様性に気付くことにつなげる。 	

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察において、足の本数・付いている部分・葉の枚数などが実際の観察対象と異なり、正確に観察できていない児童がいる。 ・予想や考察で自分の考えを文章で書くことが苦手な児童がいる。また、間違ふことを嫌って、表現する（書く・話す）ことを避ける児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識やイメージではなく、見えたものをそのまま絵や言葉で表現することを繰り返し指導し、観察中にも個別に声掛けする。 ・予想や考察を書く際に、参考となるガイドラインを活用する。また、正否に関わらず、根拠のある予想や考察を授業の中で価値付けしていくようにする。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察では、葉や花の数などが実際の観察対象と異なったり、太陽などの風景まで絵に表したりするなど、正確に観察できていない児童がいる。 ・授業で学んだことが、授業の中でしか生かされておらず、自分の生活とのつながりを考えられていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識やイメージではなく、見えたものをそのまま絵に表現することを繰り返し指導し、観察中にも個別に声掛けする。 ・授業の中で、生活経験を根拠にして話し合う活動や、生活にどう生かすことができるか考える時間を取り、学びに向かう力を育むようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響で、歌唱の発声(口の開け方など)やリコーダーに対して消極的で、苦手意識のある児童が高学年に多い。 ・自力で楽譜を読むのが難しい児童がいる。 ・楽器の演奏技能が低い児童がいる反面、習い事などの経験から高い技能をもった児童もおり差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の場に向けて口の開け方について丁寧に指導したり、リコーダーのつまずきやすい技能を分かりやすく指導したりする。 ・リズム譜では体を使いながら学んだ経験を踏まえ、のばす長さや休符の長さなどの書き込みをしてヒントになるようにする。 ・技能を習得する際にスモールステップにし、個人の進度に合わせて進められるようにする。技能が高い児童は児童同士で教え合わせ、教師が技能の低い児童の支援に入るようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方など、既習事項の基礎・基本の定着に差がある。初めて経験するものでの個人差は僅かだが、既習経験があり、年に1題材程度使用するものでは個人差が大きい。 ・発想・構想することに苦手意識を感じている児童がいる。また、表現を深めていく力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱う道具の指導では、十分時間を取り、繰り返し指導する。既習経験のある道具・用具を複数の題材で繰り返し経験できるようにしたり、個別に支援したりして、定着を図る。また、試したり、練習したりできるような材料を用意し、失敗を恐れずに安心して取り組めるようにする。 ・材料と十分に触れ合う時間を設定したり、発想力を培うようなミニ題材を適宜扱ったりすることで、表現したいことを考えていけるよう工夫して指導する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫実習では、裁縫前と片付け時の針の本数を確認するなど、用具の安全な取り扱いについて理解させ、適切にできるよう指導する必要がある。 ・学校で学習したことを、家庭生活で実践している児童が少ない。よりよい家庭生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を使う手順を明確にし、繰り返し安全に取り組むための注意事項を確認する。また、ICTを活用して取り扱い方を提示することで、児童の理解を促す。片付けの時間は十分に確保する。 ・学習カードを活用して、家庭生活でも実践できるようにする。また、計画を立てる時間を有効活用する。 	

	<p>活を考え、計画を立てて実践できるよう指導していく必要がある。</p>	<p>実践させるためには、基礎的な知識、技能を授業の中で定着させる。</p>	
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行い方のきまり、用具の使い方、場の安全確保など運動遊びの行い方をしっかりと身に付けさせる必要がある。 ・各種の運動を通して、基本的な動きを身に付け体力を養うとともに、いろいろな運動や技能を経験させる必要がある。 ・意欲的に取り組む児童が多いが、走る運動、ボール運動などのゲーム的な運動に偏りやすい傾向があり、鉄棒やマット運動などの器械運動では、意欲面・技能面ともに個人差が大きい。どの領域においても、楽しさを味わわせられるよう、実態に応じた指導計画を立てる必要がある。 ・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題の解決を図るとともに、学習活動を通して運動の楽しさや喜びを味わったり健康の大切さを実感したりさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導が必要な場面で声かけをしたり、器械・器具、場の設定や活動を工夫したりする。 ・実態に合わせた運動を取り入れる中で、楽しみながら多様な動き方を経験できるように指導をしていく。 ・音楽に合わせて体を動かすことで補助運動につなげたり、カードを活用して視覚的に分かるようにしたりする。 ・状況を見ながらグループ学習を取り入れ、運動のポイントやコツをおさえる際には、手本となる動きを児童の中から示したり、児童同士が教え合いの中で見付けたりして全体共有を図り、高め合えるよう学習環境を整える。 ・学習の見通しをもたせ、自己の課題が明確になるような学習資料やカードを取り入れる。また、器械運動や陸上運動では、スモールステップで技能を提示し、個人差に応じる工夫をする。 	
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に外国語を使って交流しようとする児童とそうでない児童に差が見られるため、外国語を身近に捉えられるように、「話す・聞く」の音声中心の指導をしていく必要がある。 ・ALTの言った単語を、繰り返して練習しているときは発語できているが、児童だけの練習では単語を発せずに困惑してしまう児童がいる。 ・アルファベットや単語、文章を書き写す際に、英語で書くことに慣れておらず、進まない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に使われている外国語を取り上げたり、普段使う言葉を外国語で発音してみたりすることにより、意欲を高める。また、映像を見たり、ゲームをしたり、ジェスチャーをしたりしながら発話することで、外国語にふれることの楽しさ外国語で伝える喜びを味わうように指導する。 ・チャンツやゲーム、歌に合わせて発音し、視覚や聴覚に訴えることで、その単語の意味と音声をリンクさせる。 ・朝学習の時間など、外国語の授業以外の時間にもアルファベットを書く時間を設ける。他にも、教科書を使用しての読み書きの活動時間を一単位時間に必ず取り扱う。また、ローマ字表を準備しておき活用するなど、自信をもって取り組めるようにする。 	